

7 すざかまちづくりミーティングの実施内容検証

(1) 市民参画の有効性

① 参加方法について

これまでの市民参加の会議開催は広報やホームページマスコミなどで広く広報し、公募する型の参加方法では、普段から意見を言える何らかの手段や機会がある市民のみなさんが積極的に参加する一方で、これまで、市役所が実施する事業などに意見を伝える機会の少なかった市民のみなさんに参加してもらうことは難しい状況でした。今回行った選出方法は、住民基本台帳からの無作為抽出により、普段参加されない方やできない方にも参加を促し、意見を言えるきっかけとして開催したことは、有効な意見収集手段であると思われます。参加者アンケートの中にも「是非今後ともこのような機会を設けて下さい。」「幅広い意見を集めることは大変重要である。」といった意見もあり、無作為抽出による参加依頼での会議は有効な手段でした。

② 参加人数について

1,000人への参加依頼に対する参加報告者が20名で承諾率が2.0%であったことは、このような取り組みをした他の自治体での承諾率が0.5~8.0%と比べると低い方になるかもしれませんが、須坂市としては決して低い率ではありませんでした。出席報告はしたが都合により出席できなかった方もいましたが、出席された18名の参加者のみなさんの積極的な話し合いの内容や様子から、市政や須坂市のまちづくりに対し関心が高いことが感じられました。

また、当日都合がつかず参加できないとの連絡も何件かいただき、「日程さえ合えば参加したかった。」「家族に出席依頼が来たが本人は出席できない、代理出席はできないか。」「参加はできないが、報告書を是非いただきたい。」といった意見もあり、ここでも関心の高さを感じました。

③ 質の高い提言

参加したみなさんに話し合っただきグループでまとめた提言内容には、行政やまちづくりに対する課題やアイデアがなど、みなさんの率直な思いが盛り込まれました。最後の各グループでの発表時には、まとめシートをもとに、経過で話し合われた内容やまとめの際に出た意見なども踏まえ分かりやすく発表していただきました。

(2) 進行について

① グループワーク

須坂市民であること以外は、年齢や性別、職業や生活環境がそれぞれ別々のみなさんがまちづくりミーティングの場で初めて同席し、2日間共通のテーマについて話し合いました。普段感じていることや担当課からの情報提供をもとに意見を出し合い、初めて会った方々が意見を出し合い、グループとして意見をまとめるまでコミュニケーションを取りながら、問題意識を共有することができました。

② テーマ設定

事務局ではまちづくりミーティングにおいて、参加されるみなさんの関心の高い事柄に対する意見を今後の総合計画に反映させることを目的に、先に行った市民総合意識調査の設問のうち、個別の施策分野に対する市民のみなさんの評価に従い「重要度」が高く、「満足度」が低いと評価された項目をテーマに選定し、参加するみなさんに検討していただくこととしました。

この考えに基づき、

ひとつは、市民総合意識調査結果で満足度が高く、重要度も高い健康や医療、福祉について「安心して暮らせるまちづくり」と設定し、

もうひとつは、市民総合意識調査結果で満足度が低く、重要度が高い雇用や商業、観光について「産業による須坂市の活性化」と設定しました。

この2つのテーマを参加依頼書にも記して依頼したことで、普段思っている意見を述べたくて参加された方もいたことから、市民のみなさんに意見を聴くテーマを前もって、イメージしやすい内容で提供することが必要である考えられます。

2つのテーマの中の小テーマを多く設定してしまったためか、「テーマが多かったので短く感じました。もっと掘り下げて討論できれば良かったように感じました。」「じっくり1つのテーマで勉強と話ができれば良かったと感じる。」「テーマが多く非常に疲れた。」との意見がありました。

③ 情報提供、話し合いのすすめ方

まず現状を知っていただいた上で意見を出していただくために、話し合いの前段で各担当課から情報提供を行いました。事前に資料を送付しましたが、「情報量が多く理解するのが大変であった。」「聴くのが疲れてしまった。」との意見がありました。その反面、「市の細かい施策、計画が良くわかりました。」「今まで知らなかった施策、事業が行われている。」と初めて知ることも多くあったとの意見がありました。

付せんによる意見の出し方により、特定の方に発言が偏ることがなく、みなさんのご意見を多く出していただくことができました。しかし、事務局としてもみなさん全員の発言ペースに配慮することができず、意見を出せない状況もありました。

話し合いでは付せんの色を変えて「現状・課題」「将来像、あるべき姿」「実現への取組み、アイデア」について意見を出していただき、グループごとに提言内容をまとめました。意見のまとめ方についての感想では、「この手法は他人の考えを良く知ることができる。」「色々な人と話ができおもしろかった。」「グループの方に同世代の方がいないので、ちゃんと自分の意見を言うことができるか(参加したかたちになるのか)不安でしたが、とても話しやすい方が多く、面白かったこと。」といった意見がありました。

④ 役割分担とコミュニケーション

各グループに、事務局から補助係を1名ずつ配置しグループワークを進めましたが、話し合

いは参加者のみなさんが役割を分担し、主体的に話し合いからまとめまで行いました。

みなさんがそれぞれの役割を担って自主的に話し合いをすすめていただき、はじめて会った者同士でもスムーズな進行ができました。時間を重ねるごとに徐々にお互いに対する壁が低くなり、世代や性別を超えた活発なコミュニケーションが行われ、休憩や昼食の時間も交流が深まりました。

アンケートには、「色々な人と話ができおもしろかった。」「色々な意見を持った人と出会えて良かった。」といった意見や、「良くしようとする気持ちがすごくある。」「みなさんアイデアは豊かに持っていらっしゃる。」といったまちづくりへの意識に対する感想もあり、須坂市民としてのお互いの存在を認識する中で、お互いのまちづくり意識についても確認し合うことができ、市民のみなさんが主体となって取り組むまちづくり活動への動機づけにもつながったものと考えられます。

⑤ マスコミ対応、傍聴

まず参加依頼の時点でマスコミリリースを行い、次に参加者が決まった後に開催に際しても広報を行いました。マスコミリリースを行った先は、新聞社12社、テレビ局6社、ラジオ局2社、そのうち記事掲載や放映など対応していただいたのは、新聞社2社、テレビ局1社でした。

その他に、市広報誌2月号や公式ホームページ「いきいきすぎか」、須坂市公認ポータルサイト「いけいけすぎか」(<http://www.suzaka.ne.jp/>)のブログなどを活用し積極的に広報しました。

参加依頼時に新聞掲載されたこともあり、関心のある市民の方からのお問い合わせや同様の取組みを検討していた近隣の自治体からも問い合わせがきました。

当日の傍聴者は市民のみなさんやマスコミ取材、近隣自治体からの取材など2日間を通して、延べ12名来ました。傍聴・取材の方への留意事項を作成し配付するなど対応をしましたが、話し合いの妨げになるような問題はなくスムーズに進行できました。

(3) 今後に向けて

① 提言内容の総合計画への反映と反映状況の周知

「すぎか まちづくりミーティング」として3グループ、2つのテーマについて6つの提言が出されましたが、今後、この提言について、総合計画への反映について、十分検討していく必要があります。また、総合計画へ反映できる提案、反映について検討を続けていく項目、反映が難しい項目など様々な対応の方向が考えられますが、策定状況について、総合計画審議会の審議結果を中心にホームページや広報紙などで情報を発信し、参加者はもちろん、広く市民のみなさんにも周知していきます。

② 「すぎか まちづくりミーティング」の今後の取組み

今回行った「すぎか まちづくりミーティング」は総合計画策定に反映させることを目的に行いましたが、話し合いのテーマの中で「子育て環境の整備」についての情報提供の資料と

して、「須坂市次世代育成支援行動計画（後期：平成 22 年度～26 年度）」について説明し、ちょうどパブリックコメント期間ということもあり、パブリックコメントを兼ねて意見収集を行いました。

今後は総合計画策定の一環だけでなく、各分野の計画策定や特定の課題についての話し合いの方法や、市民のみなさんから意見をいただく手段として、また公聴の手法の一つとして、今回行った「すぎか まちづくりミーティング」の手法は、有効な手段となるのではないのでしょうか。

実施の際には、他の自治体で行っているように各種団体と連携した実施により、共創でのまちづくりの取組みが広がるのではないのでしょうか。